

府内市町村の動き

高槻市

■高槻市は、生後4ヶ月検診を受けた親子に、絵本を無料で配布する「ブックスタート事業」を開始した。

赤ちゃんの頃から本に親しむと、発達により影響を与えるといわれており、英国で行われている「ブックスタート」がモデルになっている。市では、毎月2回行われる4ヶ月検診の受診会場に、職員を派遣し、絵本を配布するとともに、家庭での読書時間の増加にもつなげたい考え。

四條畷市

■四條畷市は、子ども向けの市史、「こども歴史わたしたちの四條畷」を発刊した。

これは、これまで市史を発刊してきたが、子どもたちには難しいことから、写真やイラストを使用して、子どもにわかりやすく、家族で楽しめるように工夫しているもの。次代を担う子どもたちが、地域の歴史を知ること、郷土愛が育まれることを期待している。

東大阪市

■東大阪市は、子育てに関する悩みや相談を電話で24時間、年中無休で受け付ける取組をスタートさせた。

これは、あふれる情報にとまどったり、相談する相手がいなくて不安を抱えたりする保護者らの話を聞くもので、不安や悩みが起因して、虐待へつながることもあることから、未然防止を図る狙いもある。

市はこれまでも、福祉事務所などで、平日の日

中を中心に受付けていたが、休日や夜間でも相談を受けてほしいとの声が寄せられたため、受付時間を拡大した。24時間体制での受付は府内で初めて。

泉大津市

■泉大津市は、母子健康手帳配布時に「妊婦ストラップ」の無料配布を開始した。

これは、妊娠初期が流産の確率が高いにも関わらず、外見では分かりづらく、電車で席を譲ってもらえなかったり、近くで喫煙されたりするなど周囲から配慮されないケースが多いことから、ストラップを着用することで、妊婦を気遣う、どんな人にも優しいまちづくりを進めるもの。府内では初めての試み。

市では、ストラップを付けた人を見かけたら、温かく接してほしいと呼びかけている。



熊取町

■熊取町は、火災や救急などの119番通報受付指令業務を行う「高機能消防指令センター」の運用を開始した。

この「高機能消防指令センター」には、新発信地表示システムや地図検索装置、自動出動指定装置が配備され、災害発生地点の把握の正確性向上

と、出場時間の短縮が可能になった。

災害が発生した場合には、出場した消防隊に対し、最新の被害状況など必要な情報の提供ができるシステムの採用しており、消防活動の質の向上や被害の軽減が期待される。



これは、改正旅券法が施行されたことに伴い、都道府県から市町村への権限移譲がなされたもの。

同市に住民票のある人と、単身赴任者や学生といった県外に住民票があって同市内に住む人が利用でき、これまで地域事務所まで週1回の申請受付だったが、市役所で毎日申請でき、利便性が図れることから、旅券申請件数は年間1,000人程度を見込んでいる。



長崎県諫早市

- 諫早市は、インターネットを使用した「諫早市スクールネット」の運用を開始した。

これは、市教委や小中学校など約50の機関を高速回線をつなぎ、行政と各学校、地域で情報の共有化や連携強化を図るもの。

ネットでは、教職員、児童・生徒、市民向けにそれぞれ専用ページを通じて、業務連絡をはじめ教育関係者の連携強化を行うほか、児童・生徒用には先生への相談窓口を設けている。

また、市民用ページでは会員登録することにより、不審者情報などのメール配信サービスを受けることができる。



鹿児島県十島村

- 十島村は、「友好島民の会」を発足させた。

これは、全国から同村のファンを募り、会員登録をしてもらい、交流人口を増やそうとするもの。

入会しやすいように年会費の異なるA・B・Cの3種類の会員コースを設けており、入会者には会員証や島民手帳が配布され、民宿での割引など、会員種別に応じた特典がつく。

今後、この取組を通じて、地域活性化につなげていく方針。

全国の市町村の動き



新潟県佐渡市

- 佐渡市は、廃食油を回収し、再利用する事業をスタートした。

これは、バイオディーゼル燃料(BDF)を作り出す装置により、給食センターなどから出る廃食油を精製し、スクールバスなどの公用車の燃料として活用するもの。

これまで廃食油は、産業廃棄物として処分されていたが、市ではこの取組を通じて廃食油が循環型社会に貢献すること、軽油と比較してクリーンなエネルギーであることなど、市民の意識啓発を図っていく。



広島県三次市

- 三次市は、市役所内でパスポート(旅券)の窓口申請・交付発行事務を開始した。